小牧駅前広場等整備基本計画

【概要版】

小牧市 KOMAKI CITY

令 和 8 年 8 月

1. 計画の位置付け

本計画は、「小牧市まちづくり推進計画　第2次基本計画」に掲げる都市ヴィジョン「魅力・活力創造都市」の実現に向け、「魅力と活力ある中心市街地の創出」を図るため、小牧駅前広場等の再整備に関する方針や施策等を示すものです。

また、「小牧市まちづくり推進計画　第2次基本計画」のほか「小牧市都市計画マスタープラン」、「小牧市立地適正化計画」及び「小牧市中心市街地グランドデザイン」に即すとともに、各種関連計画と整合・連携を図るものとします。

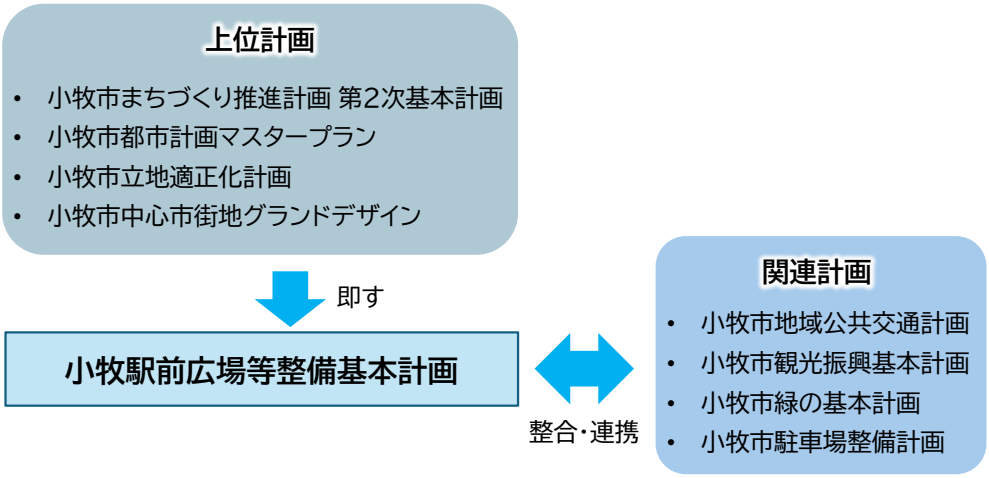


図　上位・関連計画の整理

2. 目指すべき方向性

上位計画に位置付けられた中心市街地におけるまちづくりの方向性などから、**「～市の玄関口に相応しいにぎわいの創出や安全・安心で居心地の良い空間の創出～」**を小牧駅前広場等の再整備に関する方向性とし、小牧駅は市の玄関口であり中心市街地に位置していることを踏まえ、鉄道、バス等の公共交通利用者のみならず多くの方が集い、憩いの場となるような整備を目指すこととします。

小牧市まちづくり推進計画　第2次基本計画

- 魅力と活力ある中心市街地の創出

小牧市都市計画マスタープラン

- 小牧山や中心市街地としての魅力を活かし歩いて楽しめる活気あるまち

小牧市中心市街地グランドデザイン

- 小牧山や中心市街地の魅力を活かし歩いて楽しめる活気あるまち
- にぎわい広場や駅西公園等を活用し、魅力を創出します
- 小牧駅周辺における避難者及び帰宅困難者への支援
- 市民が集い、憩うことができる空間を整備します
- 芝生広場など人々が憩うことができる居心地のよいやすらぎのある空間整備
- 公共交通利便性向上のため、交通結節点機能を強化します

～ 市の玄関口に相応しいにぎわいの創出や安全・安心で居心地の良い空間の創出 ～

3. 目指すべき方向性を踏まえた小牧駅周辺の現状、特徴及び課題の整理

目指すべき方向性を踏まえ、“にぎわい”、“安全・安心”、“居心地の良さ”の視点から、小牧駅周辺の現状、特徴及び課題を整理します。

《現状・特徴》

施設状況

- 小牧駅と中央図書館・ラピオの歩行者動線が市道小牧駅西線により分断されており、歩行者の回遊性やエリアの一体感が損なわれています。
- 東西の駅前広場を結ぶ名鉄小牧駅ビル1階部分の通路は閑散としており、空き店舗もあります。
- 名鉄小牧駅ビルのホールは、地域の企業、団体等に広く利用され、にぎわい・交流の場となっていますが、夜間に比べて昼間の稼働率が低い傾向にあります。
- 駅前広場内には、「駅東公園」や「駅西公園」といった発災時に一時的に避難できるスペースはあるものの、いずれもオープンスペースであるため、天候の影響を受けます。
- 過去から小牧駅周辺への交番設置に関する要望が寄せられています。
- 舗装の傷みやトイレの故障、シェルターからの雨漏りの発生など、駅前広場全体が老朽化しています。

利用状況

- 中央図書館及びこども未来館には年間約 110 万人の来館者があります。
- 小牧駅周辺の歩行者数・自転車通行量は、中央図書館及びこども未来館開館前と開館後で大きく変わっていません。
- 駅西のにぎわい広場では、多くのイベントが行われていますが、市道小牧駅西線の東西のエリアを一体的に使用した大規模なイベントの開催は多くありません。
- 小牧駅利用者の半数以上が駅まで徒歩で移動しており、近隣他市の主要駅と比べると自動車利用は少ない傾向にあります。

《課題》

❶ “にぎわい”の視点による課題

- 中央図書館及びこども未来館は多くの集客があるため、当該施設の利用のみに終わることなく、小牧駅前広場周辺へもにぎわいを波及させる必要があります。
- 名鉄小牧駅ビルのホールについて、昼間の利用も含め、多くの市民にとって利用しやすい施設とする必要があります。
- にぎわいを持続・発展させていくために、施設管理・運営のあり方を検討する必要があります。
- 小牧駅は徒歩によるアクセスが多く、また、徒歩圏内に中央図書館やラピオなど中心市街地の核となる施設が立地していることから、歩いて楽しい魅力ある歩行空間の整備を重点的に図る必要があります。
- にぎわいの相乗効果を発現させるため、中央図書館、ラピオ、東西の駅前広場それぞれのにぎわいの連続性・一体性を図る必要があります。
- 名鉄小牧駅ビルを挟んだ東西の駅前広場のにぎわいの連続性が途絶えていることから、一体性を図る必要があります。

❷ “安全・安心”の視点による課題

- 発災時に帰宅困難者などが天候に左右されずに安心して避難できるよう、屋内における避難場所の確保を検討する必要があります。
- 交番設置など安心して利用できる環境整備を検討する必要があります。
- 駅前広場全体のリニューアルを図り、誰もが安心して利用できる空間とする必要があります。

❸ “居心地の良さ”の視点による課題

- 駅前広場全体のリニューアルを図り、きれいで滞在したくなるような居心地の良い空間とする必要があります。
- 小牧駅は徒歩によるアクセスが多く、また、徒歩圏内に中央図書館やラピオなど中心市街地の核となる施設が立地していることから、徒歩で快適に移動しやすく安心して利用できる空間の整備を重点的に図る必要があります。

4. 基本方針

目指すべき方向性及び小牧駅周辺の現状・特徴・課題を踏まえ、整備の基本方針を示します。

方針1　まちの活性化に資するにぎわいの創出

人々が集い、にぎわいのある中心市街地の形成に向け、「小牧の玄関口」に相応しく、まちの活性化に資するにぎわいを創出します。

【方針に基づく主な施策】

■　人々が集い・交流できる空間づくり
- イベントなど多目的な利用が可能なオープンスペースの設置
- イベント主催者等が円滑かつ効率的に施設を使用できるよう使用者視点に立った設備の整備
- 屋内において集い・交流できる空間の維持・拡充
- 交通結節点機能とにぎわい空間との隣接による相乗効果の発現

■　にぎわい創出に向けた官民連携による施設管理・運営

■　駅とまちをつなぐ歩いて楽しめる空間づくり
- 小牧駅からラピオまでの直線的な東西歩行者動線の形成
- シンボルロードとあわせたウォーカブルな空間づくり
- まちの回遊の起点となる観光客等に向けた案内機能の充実

■　民間活力を活かしたにぎわい施設の設置

■　中央図書館・ラピオとの連続性・一体性のあるにぎわいの形成
- 小牧駅からラピオまでの直線的な東西歩行者動線の形成【再掲】

方針2　安全・安心で人に優しい空間づくり

小牧駅周辺において、通常時及び発災時ともに誰もが安全に・安心して利用できる駅前空間を形成します。

【方針に基づく主な施策】

■　安全・安心な環境整備
- 災害時における帰宅困難者の一次避難場所の維持・拡充
- 交番設置を見据えた上での施設配置の検討
- 照明や防犯カメラ等の設置による利用者の安全確保

■　人に優しい駅前空間づくり
- 初めて訪れる人や高齢者など誰もが分かりやすく安心して利用できる交通結節点の形成
- バリアフリーを考慮した快適な歩行者動線の形成

方針3　居心地が良い空間づくり

人々が憩うことができる居心地が良くやすらぎのある空間を形成します。

【方針に基づく主な施策】

■　居心地が良くやすらぎのある空間づくり

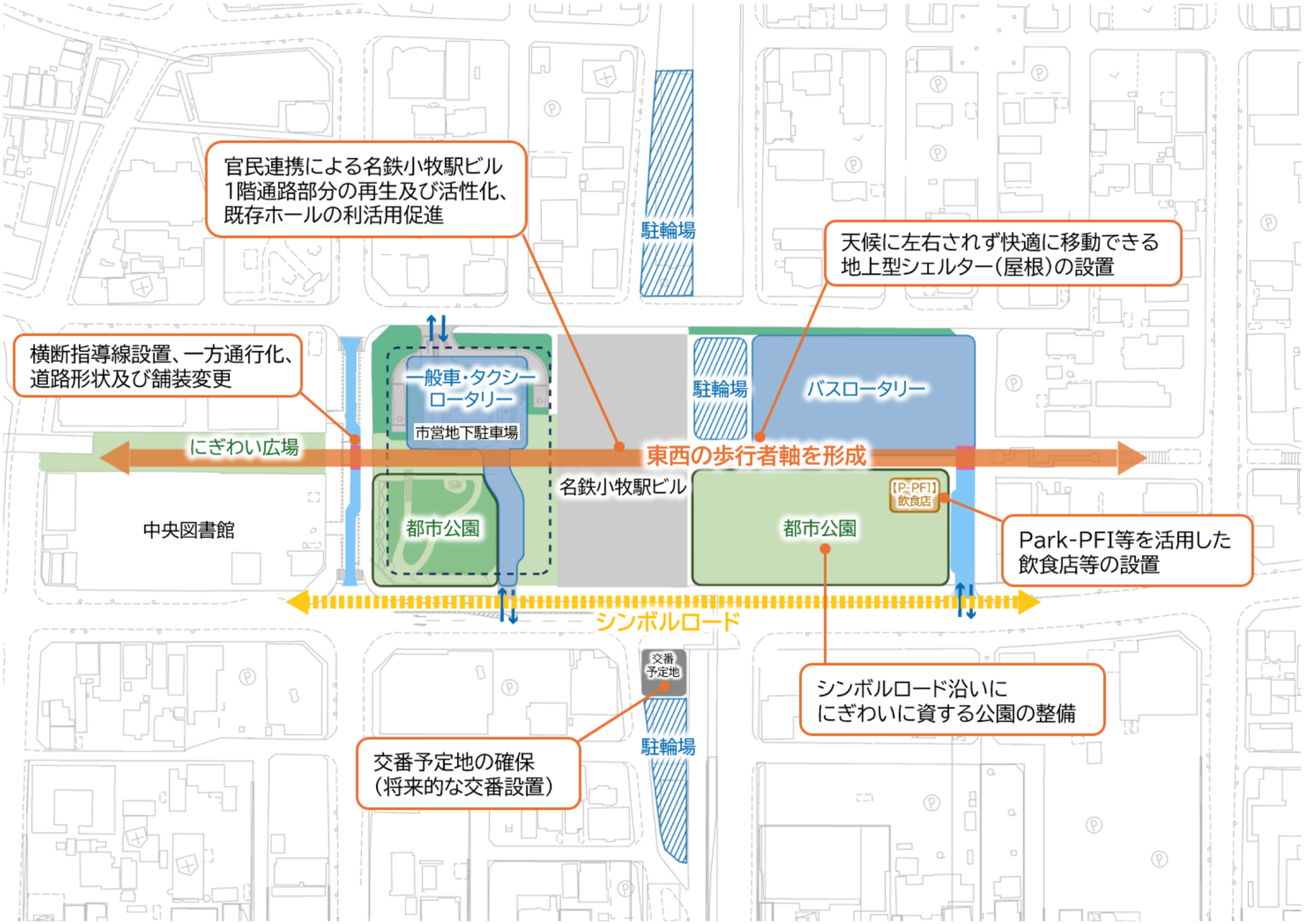
- 訪れた人がやすらげるスペースの設置
- 公共交通待合時に快適に過ごすことができる設備の整備
- 日差しを気にせず快適に過ごすことができる日陰空間の確保

■　徒歩で快適に移動できる環境整備

- 天候に左右されず快適に移動できる地上型シェルター（屋根）の設置
- 小牧駅からラピオまでの直線的な東西歩行者動線の形成【再掲】

5. 整備計画

基本方針に基づき、整備計画図を示します。



■ **東西の歩行者軸**

- 市道小牧駅西線の一方通行化(北向き)、道路形状・舗装変更、横断指導線設置により、小牧駅からラピオまでの直線的な歩行者動線を確保するとともに、歩行者に優しい道路空間とすることで、人の流れを呼び込み、小牧駅・中央図書館・ラピオといった中心市街地の核となる施設で発現されるにぎわいに連続性・一体性をもたせます。
- 東西の駅前広場をつなぐ名鉄小牧駅ビル1階通路部分について、官民連携による再生及び活性化を図ることで、駅東西間のつながりを強化し、人の流れやにぎわいに連続性・一体性をもたせます。

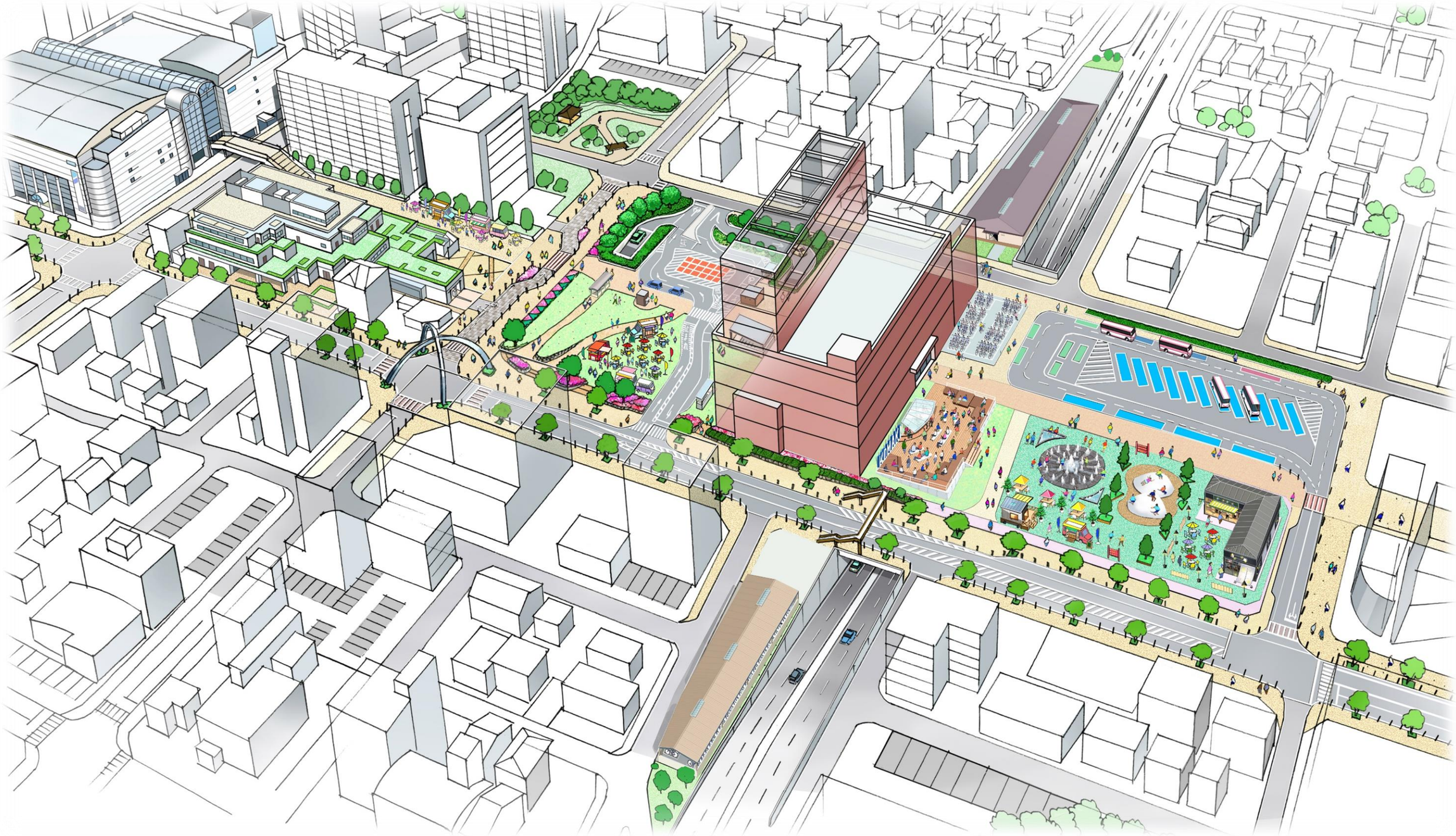
■ **駅東駅前広場(都市公園、バスロータリー)**

- 駅前広場全体のリニューアルを図り、誰もが安心して利用できる空間やきれいで滞在したくなるような空間を形成します。
- シンボルロード沿いににぎわいに資する都市公園(オープンスペース)を配置することで、Park-PFI 等による飲食店等の出店ニーズが高まるとともに、新たなにぎわいがまちなかへ波及することが期待できます。

■ **既存施設の活用**

- 官民連携により名鉄小牧駅ビルの既存ホールの利活用を促進し、引き続き小牧駅前への集客を確保するとともに、屋内において人々が集い・交流できる空間を確保します。

【イメージパース図】



6. 計画の実現にむけて

(1)今後のスケジュール

本計画策定以後の今後のスケジュールについて整理します。

ただし、これらの実施時期については、財政状況などを踏まえながら検討・判断します。

なお、事業期間が長期にわたることとなるため、この間に、周辺環境や前提条件等の状況に大きな変化が生じた場合は、整備計画の内容やスケジュールの見直しも含めて柔軟に対応することとします。

	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
駅東駅前広場	設計等	バスロータリー整備、都市公園整備			
市道小牧駅西線	設計等	道路改良工事			
民間活力 （Park-PFI等）		手法検討	詳細・実施検討、事業者募集、店舗整備		
官民連携 （駅ビル通路）		協議・調整	再生・活性化に向けた整備・支援等		

(2)概算総事業費

本基本計画に基づく設計、工事費等の総事業費（ただし、官民連携による名鉄小牧駅ビル１階通路部分の再生及び活性化に要する費用を除く）として、概ね１１億円を見込み、その財源については、一般財源のほか、国庫補助金や地方債により充当することを想定します。

また、事業規模が大きいことから、単一年度において財政負担が過度に集中することがないようなスケジュールとし、年度間の平準化を図ります。

なお、上記総事業費は計画策定時点での概算であり、建設コストや設計内容等により変動する可能性があります。

(3)整備後の施設管理・運営

「市の玄関口に相応しいにぎわいの創出や安全・安心で居心地の良い空間の創出」を目指す上では、整備内容だけではなく、整備後の施設管理・運営のあり方についても重要となります。

施設の維持管理と施設を活用した集客イベント等の企画・運営などをあわせて民間まちづくり団体等に事業委託し、民間的視点も取り入れながら、ハード面とソフト面の管理・運営を一体的に実施し、柔軟性や即時性の高い管理・運営が期待できることから、こうした官民連携による施設管理・運営方法について、施設整備の実施と並行して検討・調整を進めます。